

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止しまします。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース/豪雨被害
- 3面 読者のページ/まんが/詩/俳句
- 4面 年金相談/女性史散策/人「性」いろいろ/韓国から
- 5面 憲法/ホット
- 6面 ポイストレーニング/もう一品/母の歴史
- 7面 新婦人のページ/主張/北京+25



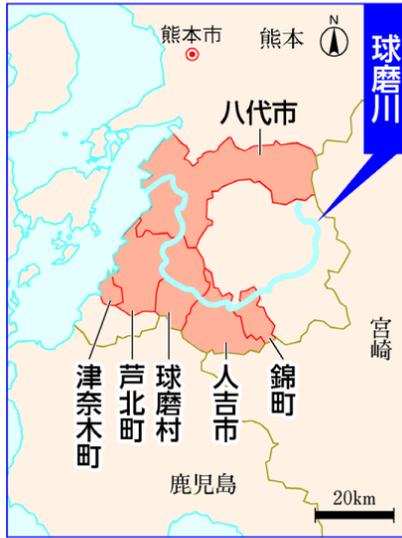
高知市 小泉美恵 (68)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです



片付かない災害ごみ、街のあちこちに

熊本県南部の豪雨被害関係地



コロナ禍での大災害となった7月豪雨、九州を中心に河川の氾濫や土砂災害による甚大な被害を各地に広げました。最も大きな被害を受けた熊本では、死者が65人となり、2127人が避難生活を強いられています(15日現在)。新婦人熊本県本部の福田ゆみ事務局長の緊急レポートです。

熊本県の被害

(死者数・人)	
25	球磨村
20	人吉市
11	芦北町
4	八代市
3	津奈木町
2	山鹿市
計65人	

人吉市(人口3万2000人)は、球磨川の氾濫で甚大な被害をうけました。1965年にも大水害がありましたが、今回は当時の水位より2層高いとの報告も。「川面に

コロナ禍の豪雨災害

二重の打撃に「復興支援急いで」

家財道具が
積み重なったまま

新婦人熊本県本部事務局長 福田ゆみさん レポート



中務さんにタオルなどの支援物資を

なら立ち上がれないと思ったが、被災直後から仲間が支えてくれ、片付けをしていると話します。

洲上さんは、「街の復興にどれだけ時間がかかることか、水への不安からもう住めない」の声も。片付けや仮設住宅など復興支援を急いで」と訴えます。

災害の大規模化に備えて

人吉くま支部長の洲上照代さんに「必要なものは？」とたずねると、「人手」という返事。まずは現地へと、7月10日、西山澄子会長とともに、天候不順の中、人吉市へ向

かいました。道路には泥、災害ごみとなった家財道具は積み重なったまま。異臭もあり、感染症発生も心配されています。故郷の被災した姿に言葉を失いました。

貴重品と母子手帳を持ち出し、どしゃ降りのなか徒歩で中学生の息子さんと一緒に避難。「豪雨から1週間たち疲れを自覚し呆然としている」と話します。今後の住まいを探していますが、「市内1000人以上の避難者に対して仮設住宅が40戸の建設ではまったく足りない！」と訴えます。

今回の浸水状況は市の洪水ハザードマップとほぼ重なっていますが、カバーしきれていない地域でも浸水しました。災害の大規模化に対応したハザードマップの整備と街づくりの必要性を感じました。



泥出した東さんのアパート

被災状況や要望を聞き取りながら、支援物資を届け、片付け作業に加わりました。

仮設住宅が足りない

県内では人吉市の他、水俣市、芦北町、八代市、荒尾市でも会員や読者が被災しており、寄せられた声や要望をもとに自治体や国へ要請を届けていく予定です。(2面へ)

8月13日号は休刊です

